

出張報告書

令和 7年 4月 19日

会派名 民主市民ネット

会長 山田 庫司郎 様

出張者氏名 平賀 貴幸

下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和 7年 4月 19日（土） ～ 令和 7年 4月 19日（土） （1日間）						
出張概要	①	月日	4/19	市町村名	小樽市	会場	
		目的	高齢者を対象としたスマホ教室と地域課題解決の実践調査				
		テーマ	高齢者に対するスマホ教室の取り組みを学ぶ				
	②	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	③	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	④	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙（任意様式）で作成して下さい。

政務活動費報告書：高齢者を対象としたスマホ教室と地域課題解決の実践調査

実施日：2025年4月19日

会場：小樽市 ウイングベイ小樽

視察先：札幌学院大学「まちおこし研究会」、小樽市町内会連合会

【調査の目的と経緯】

網走市においても自治体を中心にスマホ教室が進められていますが、学生団体が「街づくり」の一環として主体的に取り組んでいる事例に注目し、この度、視察調査を行いました。事前リサーチの結果、小樽および札幌の大学生が町内会と協働して活動しており、その指導・助言を、旧知の仲である札幌学院大学講師・松代弘之氏が務めていることが分かりました。松代氏に連絡を取ったところ、同氏に加え、小樽市町内会連合会の堀口雅行会長、藤井秀喜事務局長にも同席いただけることとなり、4月19日にお会いしてお話を伺うことができました。

【調査内容の詳細】

札幌学院大学の公認サークル「まちおこし研究会」が中心となり、小樽市町内会連合会と連携して進めているこの取り組みは、単なる操作説明の枠を超えた、極めて先進的な地域課題解決モデルでした。その核心について、以下の通りまとめます。

1. 産学官民が連携する「小樽モデル」の構造

本取り組みの最大の特徴は、学生サークルと町内会連合会が強固な信頼関係で結ばれている点です。行政主導の教室では予算や講師確保といった継続性が課題となりがちですが、小樽市では、松代講師の指導下で学生が「教える側」として地域に入り、町内会側が「場」と「参加者」をコーディネートするという、自律的かつ持続可能な協力体制が構築されています。

2. 「デジタルデバйд解消」を超えた多世代交流の創出

視察を通じ、この教室が「多世代交流の拠点」として機能している点に深い感銘を受けました。高齢者の皆様にとっては、孫世代の学生から丁寧に教わることで心理的障壁が下がり、外出や会話の楽しみが生まれます。一方、学生にとっても地域住民と直接触れ合うことで、教科書では学べない「地域のリアル」を肌で感じる貴重な教育の場となっており、孤独・孤立対策としても有効なアプローチであると確信いたしました。

3. 町内会組織の活性化と情報伝達の迅速化

町内会連合会がこの事業に注力する背景には、組織の持続可能性への危機感があります。スマホ教室を通じて住民がLINEなどを使いこなせるようになることは、災害時の緊急連絡や町内会情報の迅速な共有を可能にします。紙の回覧板に依存した伝達手段をデジタル化することで、役員の負担軽減を図り、現役世代が町内会活動へ参加しやすくなる効果も期待されています。

4. 網走市への応用と展望

網走市においても、高齢化と人口減少に伴う地域コミュニティの希薄化は喫緊の課題で

す。小樽市における松代講師と学生たちの献身的な活動、そしてそれを受け入れる町内会連合会の柔軟な姿勢は、我々が見習うべき「共創」の姿でした。網走市においても東京農業大学や高校生を含めた協働が進まないか模索したいと思います。

出張報告書

令和 7年 4月 28日

会派名 民主市民ネット

会長 山田 庫司郎 様

出張者氏名 山田 庫司郎、金兵 智則、深津 晴江

下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和 7年 4月 26日（土）～ 令和 7年 4月 27日（日）（2日間）						
出張概要	①	月日	4/26	市町村名	津別町	会場	ランプの森つべつ
		目的	民主議員ネット・オホーツク 総会・研修会				
		テーマ	「都心のある過疎地に」 「地域交通のDXに向けた国土交通省の取り組みについて」				
	②	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	③	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	④	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙（任意様式）で作成して下さい。

令和7年度 民主市民ネット政務活動費

山田庫司郎、金兵智則、深津晴江

民主議員ネット・オホーツク 2025 年度定期総会・政策研修会

所 感：講演「津別町のまちづくりについて」
特別講師 津別町長 佐藤 多一 氏

「都心のある過疎地に」をタイトルに、津別町の地域創生についての講演であった。

1. 津別町紹介

人口 3,912 人（2025 年 3 月末、高齢化率 46.32%）、面積 716.6km²
うち森林面積 86%、328,147,628 本の木、1,025,662 人分の酸素を供給
町の特徴として、ケミチップ湖と津別峠の雲海、道内唯一の森林セラピー基地、オーガニック牛乳生産、合板会社がある。

2. 人口減少と合併協議、その後自主自立へ

人口は、2040 年 2,525 人、2050 年 1,852 人（社人研人口推計）、地方交付税と
税収の減少が懸念された。2004 年オホーツク圏北見地域合併協議会が設立されたが、
翌年住民投票合併反対により協議会離脱。2006 年津別町自主自立まちづくり構想策
定。2010 年第 5 次総合計画策定。

3. 地方創生の取組開始

- 1) 筑波大学との「まちなか再生」事業 1998 年ラグビー合宿の縁を地域資源と考え、コ
ンパクトシティづくりと工大連携を含む人材育成。
- 2) 船橋タウン誌『my funa』発行編集長との地域創生事業 1984 年からの交流関係を
地域資源と考え船橋市と特化した取組。I ターン移住、婚活、インターネットテレビ局
設立、障がい者グループホーム開設、さんさん館カフェ運営委託

4. 中心市街地を活性化するまちづくり開始

- 1) 2015 年 3 月まちなか再生協議会 筑波大学と連携、毎月勉強会とシンポジウム
- 2) 2017 年～議会複合庁舎等調査特別委員会、庁舎等特別審議会、まちなか再生基本計画
策定、図書館建設検討委員会、市街地総合再生基本計画策定委員会、同協議会等が設置さ
れ検討された。

5. 現在までの整備状況と今後

- 1) 2020 年 5 月 農協事務所新築オープン
- 2) 2021 年 5 月 役場新築オープン
- 3) 2023 年 11 月 大通棟（ウッドリーム）オープン（スーパー、バスターミナル、図書
館、ハイヤーの複合施設）
- 4) 2024 年 11 月 幸町棟オープン（サッポロドラッグストア、まちづくり会社事務所の

複合施設)

事業費：外構、公用車車庫等、備品、旧庁舎・公宅等解体等 合計 4,330,886(単位千円)

財源内訳：国補助金 369,560、町債 3,178,879、基金 782,277 一般財源 170

5) 残る4つのゾーンと民間による施設建設

建築費等の高騰などを考慮し計画の再検討を行う。

- ・福祉法人による特別養護老人ホームの建替
- ・丸玉木材株式会社経営の津別病院の建替未定、整備基金設置している。

国立社会保障人口問題研究所による津別町の人口予測は、2050 年に 2,000 人を割る。

現役、町長の話聞く貴重な機会であった。その中で、平成の大合併をどうするかと協議した時に、もちろん様々な意見があったが住民投票の結果、どこの市町とも合併せずに自主自立を決めたことがわかった。政治は住民の声を真摯に聴き確認していくことが重要なことを再確認できた。その後、まちの強みを地域資源として活用していき、町全体をどうするか、どうしたいかとビジョンの明確化が大切なことの理解を深めることができた。網走市の今後のまちづくりに活かしていきたい。

出張報告書

令和 7年 5月 19日

会派名 民主市民ネット

会長 山田 庫司郎 様

出張者氏名 山田 庫司郎、深津 晴江

下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和 7年 5月 18日（日）～ 令和 7年 5月 19日（日）（2日間）						
出張概要	①	月日	5/18	市町村名	札幌市	会場	ホテルポールスター札幌
		目的	民主議員ネット北海道2025年度春季政策研修会				
		テーマ	「地方財政・税の課題と今後の在り方」 「北海道の自治体病院の現状と課題」				
	②	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	③	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	④	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙（任意様式）で作成して下さい。

民主議員ネット・北海道 2025 年度定期総会・春季政策研修会

所感1. 講演『地方財政・税の課題と今後の在り方について』

講師 佐藤 主光 氏 一橋大学経済学研究科教授

地方財政の課題として、集権的分散システムであり、全額を地方財政計画の一般行政経費（補助）等に計上するとともに、新たに地方交付税措置がされる。人口減少は受益者・納税者としての住民の減少だけではなく、地方行政の担い手たる地方公務員も減少することが挙げられた。

新たな地方分権のためには、地方財政のパラダイムシフトが必要である。2040年には今の半数の公務員で行政を担う必要があるとの報告もある。個々の市町村が行政のフルセット主義から脱却し、圏域単位での行政をスタンダードにして、戦略的に圏域内の都市機能を守る必要がある。課題として、ヒトでは、デジタル・民間契約等の専門知識のある人材の確保、人口減少とともに職員の確保が困難になるのでその対応。モノは、既存インフラの老朽化と更新投資。カネは、国からの財政移転（交付税・補助金等）に支えられた地方財政が挙げられた。

近い将来、単一の地方自治体では、住民の生活が成り立たなくなることが予測されている。広域連携の仕組みと運用が必須となるため、今後もさらに何をどのようにしていくのかを考え、協力し合う信頼関係づくりと具体的な内容を推進していく必要性を強く感じた。

所感2. 講演『北海道の自治体病院の現状と課題について』

講師：北海道自治体病院協議会 会長 西川秀司（札幌市病院事業管理者）氏

病院の経常利益率はコロナ補助金を除くと、一般病院はマイナスとなっている状況である。WAM（福祉医療機構）の調査では、病院の経営状況（医業利益率）は経年的に悪化しており、特に急性期（一般病院）の2023年度では過去最大のマイナス2.3%となっている。給与費比率、委託費比率など全体的に経緯費は上昇している。しかし、人口減少と健康な高齢者の増加により、受療率は低下し、在院患者・外来患者はいずれも減少傾向にある。医業利益・経常利益ともに赤字病院割合が増加している。新聞等で報道はされているが、地域医療はもう崩壊寸前なこと、ある日病院がなくなってしまうかもしれない危機的な状況を住民などに知ってもらうことが必要である。

対応策は、抜本的な診療報酬体系の見直、収支不均衡の是正、人材の派遣、医療DXの推進、地域内の医療機関による機能分化は必須となっているが、地域住民に十分に理解されていないことも大きな課題である。

地方自治体を持続可能にするためには、住民の安心安全が挙げられる。そのためには、医療・介護が受けられる環境が重要である。国にしっかりと整備するように働きかけ続けなければならない。

出張報告書

令和 7年 7月 1日

会派名 民主市民ネット

会長 山田 庫司郎 様

出張者氏名 平賀 貴幸

下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和 7年 6月 3 9日（月） ～ 令和 7年 7月 1日（火）〔2日間〕						
出張概要	①	月日	5/18	市町村名	恵庭市	会場	恵庭市廃棄物中間処理施設
		目的	恵庭市廃棄物中間処理施設視察調査				
		テーマ	恵庭市廃棄物中間処理施設視察調査				
	②	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	③	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	④	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙（任意様式）で作成して下さい。

政務活動費報告書：恵庭市廃棄物中間処理施設の運営状況と安定性に関する調査

実施日：2024年7月1日

会場：恵庭市廃棄物中間処理施設（エコルセンター）

【調査の目的と経緯】

網走市においても、廃棄物処理施設の老朽化対策や持続可能な処理体制の構築は、市民生活に直結する極めて重要な政策課題です。また、網走市を含めた1市5町での共同設置運用が前提となっている状況で、想定される焼却炉とほぼ同規模の恵庭市の状況を視察することは意義深いと考えました。恵庭市では、中間処理施設の実際の焼却能力の運用実態や、事前の設計想定と稼働後の状況にどのような差異が生じているのか。また、長期的な安定稼働に対する懸念材料や設計上の反省点はないか。これらを現地で直接確認し、今後の施設整備および運営の参考とするため、視察調査を実施いたしました。

【調査内容の詳細】

恵庭市の担当者から、施設の稼働実績や維持管理の現状について詳細な説明を受け、現場を視察しました。主な調査結果は以下の通りです。

1. 焼却炉の規模と燃焼効率の相関関係

視察を通じて再認識した重要な知見は、「焼却炉は小型になればなるほど、燃焼効率が不安定になる」という点です。大型の焼却炉ほど熱容量が大きく、投入されるごみの質（水分量や熱量）のバラつきを吸収しやすいため、燃焼のコントロールが容易になります。逆に小型炉では、わずかなごみの変化が炉内温度に直結し、安定稼働を維持するための難易度が高まるという実態を把握しました。

2. 設計上の課題：ごみピットの構造について

運用開始後に顕在化した課題として、ごみを一時的に貯留する「ピット」の構造が挙げられます。恵庭市の事例では、ピット内に「壁」を設けていなかったことが、運用の足かせとなっていました。壁がないことで、ごみの種類ごとの分別管理や攪拌（かくはん）作業が難しくなり、結果としてゴミで壁を作るような形で積み上げていく作業が必要となり、「熟練の作業員による目視と手動操作」が必要となっていました。安定した自動運転を目指すのであれば、設計段階で「ごみの均質化」を物理的に担保するピット構造の採用が不可欠であったという点は極めて重要です。

4. 網走市への応用と展望

今回、施設整備においては「単にごみを燃やす能力」だけでなく、「誰が操作しても安定して燃やし続けられる設計」の必要性を感じました。今後も、維持管理コストの抑制と安定稼働を両立にむけた炉の適正規模の選定、現場の作業性を考慮したピット構造の検討について、今回の知見を基に強力に提言したいと考えます。また、水処理についてもクローズドシステムの優位性を感じましたので合わせて働きかけていきます。

出張報告書

令和 7年 8月 23日

会派名 民主市民ネット

会長 山田 庫司郎 様

出張者氏名 平賀 貴幸

下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和 7年 8月 22日（金） ～ 令和 7年 8月 23日（土）〔2日間〕						
出張概要	①	月日	8/22	市町村名	札幌市	会場	
		目的	日本地域創生学会 自治体首長・教育長勉強会の出席				
		テーマ	木村俊明日本地域創生学会会長、堀井伊達市長、竹中むかわ町長、岸名寄市教育長の公園及びパネルディスカッションを拝聴し研鑽を深める				
	②	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	③	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	④	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙（任意様式）で作成して下さい。

政務活動報告書：2025年度 自治体首長・教育長勉強会
「大学・高校と協働した地域創生および探究学習の先進事例調査」

実施日時：2025年8月22日（金）15時～17時

会場：Bivi新さっぽろ2階

1、調査研究の目的

北海道文教大学教授・日本地域創成学会会長である木村俊昭氏が開催する勉強会のご案内をいただき、道内先進自治体（伊達市・むかわ町・名寄市）が実践する「高校・大学と連携したまちづくり」の手法を学び、網走市における東京農業大学オホーツクキャンパス等との連携強化および学校教育の充実に資することを目的として出席しました。

2、調査内容

本勉強会は木村俊昭氏の開会あいさつを兼ねた講和から開始されています。今回のパネリストを務める3つの地域の事例を中心に事前レクチャーとしてのお話があり、地方創生を目指してのまちづくり、ちいきづくりの中で小中高大の教育機関の総合的な連携の重要性についてお話を伺うことができました。

続いて、同氏のコーディネートにより、以下の3名のパネラーによる実践報告と討議が行われています。

伊達市：堀井敬太 市長

内容：若者の挑戦を促す「だてプロ（だて未来ゼミ）」。「伊達共成長オフィス」を拠点に、高校生・大学生・大人が対等に議論し、若者のアイデアを事業化するアントレプレナーシップ教育と、デジタル発信の強化に取り組んでいる先進的な取り組みでした。

むかわ町：竹中喜之 町長

内容：独自の探究学習プログラム「むかわ学」の推進。鵜川高校の生徒が「恐竜」「シシャモ」等の地域に密着した資源や魅力をテーマに地域を調査しながら課題解決を提案し、町長らへ直接提言を行う「出口」のある教育実践が特徴的でした。札幌大学などとの連携することで、さらに学を深められる取り組みも強く印象に残りました。

名寄市：岸小夜子 教育長

内容：公立大学である名寄市立大学を核とした地域力の強化と「知の循環」による接続可能なまちづくりを進める好事例でした。学生が小中学校の学習支援員として現場に入る仕組みや、教育長自らの徹底した現場視察による、教職員・児童生徒との信頼関係構築についての具体的な取り組みについても学ぶことができました。

3、所感及び網走市政への反映・提言

「網走版・探究学習」の確立：むかわ町の事例を参考に、東京農大オホーツクキャンパスの学生と市内高校生が合同で地域課題（観光・一次産業）に取り組む「網走学」の体系化を目指すことが必要だと感じました。

教育現場のボトムアップ：岸教育長の姿勢に学び、教育委員会と議会がより現場（各小中学校及び高校・大学）の生の声を聞き、ICT活用や教員の負担軽減を伴う教育の質向上を加速させることが必要であり、各学校が有機的に連携する仕組みの構築が必要です。

若者の居場所と出番の創出：伊達市の事例のように、若者が市長や議員に直接政策提言できるプラットフォームを常設し、地域を愛する心を醸成する仕組みを構築することが必要であるとともに、若者の思いを真剣にかなえようと動くまちを網走市もめざして努力することが肝要だと感じます。

これらの内容については一般質問などを通じて政策提言を重ねたいと考えています。

出張報告書

令和 7年 8月 28日

会派名 民主市民ネット

会長 山田 庫司郎 様

出張者氏名 平賀 貴幸

下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和 7年 8月 27日（水） ～ 令和 7年 8月 28日（木）〔2日間〕						
出張概要	①	月日	8/27	市町村名	札幌市	会場	
		目的	全国市議会議長会研究フォーラムの出席				
		テーマ	全国市議会議長会研究フォーラムに出席 講演やパネルディスカッションを通じて研鑽を深める				
	②	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	③	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	④	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙（任意様式）で作成して下さい。

政務活動報告書：第20回全国市議会議長会研究フォーラムにおける地方議会の課題と多様な人材参画に関する調査

実施日：2025年8月27日～8月28日

会場：札幌文化芸術劇場 hitaru（札幌市）

【調査の目的と経緯】

網走市議会においても、人口減少に伴う議員のなり手不足や、市民ニーズの多様化への対応は避けて通れない喫緊の課題です。本フォーラムは、全国の市議会議員が一堂に会し、地方自治の根幹である議会のあり方を議論する貴重な機会となります。

特に、これまでの経験を維持しつつも、いかにして若手や女性、多様なバックグラウンドを持つ人材が議会に参画しやすい環境を構築できるか。また、主権者教育を通じて市民と議会の距離をどう縮めるべきか。全国の先進事例や専門家の理論を直接確認し、今後の網走市議会の活性化および体制整備の方向性を探る材料を求めて出席しました。

【調査内容の詳細】

このフォーラムでは、基調講演およびパネルディスカッション、課題討議を通じて、議会改革の現在地について詳細な説明を受けました。主な内容は以下の通りです。

1. 議員のなり手不足と処遇改善の相関関係

パネルディスカッションを通じて再認識した重要な知見は、「地方議員のなり手不足という課題は全国共通のものであり、これは立候補を志す者の意欲の問題ではなく、構造的な障壁（報酬、厚生年金、生活をするために必要となる仕事との両立）に起因している」という点になります。特に現役世代が立候補を断念する大きな要因として、市議会議員の厚生年金加入などが実現していない現状があげられ、社会保障の不透明さが影響していることが改めて挙げられました。これは国への働きかけが必要な課題です。また、市議会としてICTを活用した「場所や時間に縛られない議会運営」への移行を徐々に参画に向けたハードルを下げる物理的な鍵となる実態を把握しました。

2. 主権者教育と「アウトリーチ型」議会の重要性

課題討議で報告された岡谷市の事例では、議会が「待つ」姿勢から「出向く」姿勢へ転換したことが大きな成果を上げていることがわかりました。市民意見交換会において、単に意見を聞くのにとどまらず、中高生や現役世代の活動の現場へ議員が直接赴き、対話を重ねることで、「自分たちの声が政策に反映される」という実感を醸成する努力を重ねています。こうしたとりくみは、安定した議会運営を目指すのであれば、選挙時のみならず、日常的な「政治の可視化」を仕組みとして必要なものであり、網走市議会においても実践可能な例だと感じました。現在の議会報告会を見直しながら実現に向けた修正が必要です。

3. 倫理観と「言論の府」としての誇り

伊吹文明氏の基調講演では、議員一人ひとりが「主権者から負託を受けた存在である」という重みを再認識することができました。政務活動費の適正な運用や不祥事防止といった守りの姿勢も大切ですが、建設的な議論を通じて市民の信託に応えるという、議員の品

格と倫理観の徹底が、結果として市民の議会に対する信頼回復やなり手不足問題の解消に繋がるという本質的な理解を深めることができました。

4. 網走市への応用と展望

今回の調査を通じて、網走市議会において「開かれた議会」をさらに進めるためには、情報公開をさらに進めることはもちろんのこと、若者や女性が「自分たちの居場所」と感じられるような議会改革の必要性を強く感じるとともに、網走市議会そのものがまちづくりの仕組みの1つとして認識されるような議会に生まれ変わる努力をすることが必要だと感じています。

今後は、オンライン委員会の本格導入による参画障壁の除去を進めるなどをさらに進める必要があります。また、以前も一般質問を通じて提言した鵜川町が進める「むかわ学」のような地域探究学習と連動した「網走版主権者教育」の確立について、今回の知見を基に強力に提言することを続けたいと思います。また、議員報酬や厚生年金等の処遇改善についても、全国的な動向を注視しつつ、市民の理解を得られる形での議論を働きかけていくことが必要ですので、そのことも念頭に置きながら取り組んでいきたいと思っています。

出張報告書

令和 7年 8月 25日

会派名 民主市民ネット

会長 山田庫司郎 様

出張者氏名 金兵智則

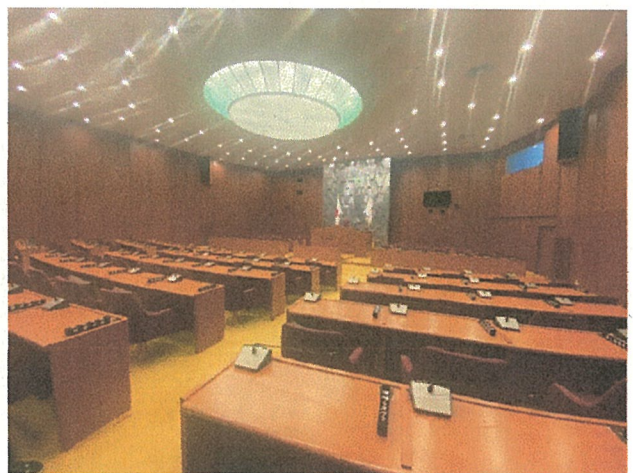
下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和 7年 8月 21日(木) ～ 令和 7年 8月 21日(木) [1 日間]						
出張概要	①	月日	10月17日	市町村名	札幌市	会場	札幌市議会
		目的	視察及び意見交換				
		テーマ	札幌市におけるカスタマーハラスメント対策について				
	②	月日	10月17日	市町村名	札幌市	会場	下水道科学館
		目的	視察				
		テーマ	札幌市下水道科学館について				
	③	月日	10月17日	市町村名	札幌市	会場	防災センター
		目的	視察				
		テーマ	札幌市民防災センターについて				
	④	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙(任意様式)で作成して下さい。

- 調査概要 札幌市におけるカスタマーハラスメント対策について他
- 日 時 令和7年8月21日(木)
- 会 場 札幌市役所他
- 内 容 札幌市総務局行政部行政監察担当課の稲村課長と経済観光局経営支援・雇用労働担当部雇用労働課の六角課長にご対応いただき、市役所庁舎内及び札幌市事業者向けのカスタマーハラスメント対策についての説明と意見交換を致しました。
- 札幌市でも市民のカスハラが増加し、対応策が必要になったことから始動したそうです。気付きを促すポスターを製作、掲示。このポスター掲示が報道機関に取り上げられたことにより、他自治体や企業から多数の問い合わせがあり、札幌市や商工会議所、札幌地区連合で構成する協議会において企業用のポスターも作製。企業に配布するのみならず、札幌地下鉄のデジタルサイネージを活用した掲示にも着手。大きな効果となったそうです。その他、対策マニュアルの作成や電話の通話を録音するための機器導入など対策を進めているそうです。今後は、各部署による独自の取組の一層の推進やAIによる対応など取り組みを進めていきたいとのことです。今回の視察を参考にしながら、網走市の取り組みや対応について議論を重ねていきたいと考えております。
- また、修学旅行や学校研修で人気の札幌市下水道科学館と札幌市防災センターの視察もさせていただきました。両施設とも体験をしながら楽しく学べる施設となっており人気があるのもうなずける内容でしたが、維持管理費等を考えた場合、同様の施設は網走では難しいと感じました。ただ、下水道科学館では全国的に人気のカラーバリエーションに富んだマンホールの蓋をカードにし、配布してありました。本物は科学館の敷地にあり、札幌市にはその他にもカラーマンホールがあるようで、そのカードをもらうためにはマンホールの近くの施設に行かなければもらえないようになっているそうです。市内を回ってもらう取り組みの一つとして良い取り組みだと感じました。



《札幌市下水道科学館》



《札幌市民防災センター》



出張報告書

令和 7年 10月 18日

会派名 民主市民ネット

会長 山田 庫司郎 様

出張者氏名 平賀 貴幸、金兵 智則

下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和 7年 10月 17日（金） ～ 令和 7年 10月 18日（土） （2日間）						
出張概要	①	月日	10/17	市町村名	釧路市	会場	釧路市議会
		目的	道東6市・市議会議員研修会				
		テーマ	「K-HACKについて」「三方よしで支える介護予防の取組について」他				
	②	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	③	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	④	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙（任意様式）で作成して下さい。

政務活動報告書：道東6市市議会議員研修会における地域包括ケアと産業振興エコシステムの調査

実施日：2024年10月17日

会場：釧路市役所

内容：道東6市（帯広・釧路・北見・網走・紋別・根室）市議会議員研修会

【調査の目的と経緯】

網走市において、持続可能なまちづくりを推進するためには「社会保障の安定」と「地域経済の活性化」の両輪が不可欠です。本研修会は、道東の拠点都市である釧路市が実践する、住民の健康寿命を延ばす福祉施策と、新たな産業を生み出すスタートアップ支援の先進事例を学ぶために出席いたしました。

特に、少子高齢化が進む中で、いかにして「支え合い」を仕組み化するか。また、既存の産業に加え、ITや若者の起業をどう呼び込むかを重点に学びました。

【調査内容の詳細】

1. 「三方よし」で支える介護予防の取り組み（講師：釧路市福祉部次長 鈴木紀子氏）
講義を通じて再認識した重要な知見は、介護保険制度の持続可能性を高めるための「三方よし」のプラットフォーム構築でした。釧路市では、以下の三者が一体となった仕組みづくりを推進しています。

•事業者

介護事業者が単なるサービス提供に留まらず、地域住民の健康づくりや通いの場に関わることで、地域に根ざした信頼を獲得し、人材確保や事業の安定に繋げる。

•地域住民

住民自らが介護予防の担い手や活動の主体となることで、健康寿命の延伸と「役割」のある生きがいを創出し、住み慣れた地域で安心して暮らし続ける環境を得る。

•行政

事業者と住民の共助が活性化することで、要介護認定率の抑制や介護給付費の適正化が図られ、限られた財源で質の高い福祉サービスを維持できる。

網走市においても、事業者と住民をいかに「共通の目的」で巻き込むかという、マネジメント能力を行政組織が持つことの重要性を確認しました。

2. 釧路市ビジネスサポートセンター（k-Biz）とk-Hack・KCボードによる産業エコシステム（講師：田辺 貴久氏）

現場の売上支援からスタートアップ創出、そして経済界を挙げた組織体制までが連動した、釧路独自の産業振興モデルを調査についてお話を伺いました。

•k-Biz（ビジネスサポートセンター）

お金をかけず知恵を出して「売上を伸ばす」ことに特化した伴走型支援の仕組みでした。

•k-Hack（IT・DX推進と人材創出）

田辺氏が最高責任者を務める組織は、「スタートアップ人材創出」「IT企業誘致」「IT企業創出」を3本の柱とし、地域課題をデジタル技術で解決するエコシステムを構築しているほか、大手クライアント中心のWEB販促支援企業との提携を進めるなどして、実際にビジネスが軌道に乗りやすくするための取り組みを進めていました。

•KCボード（釧路スタートアップエコシステム推進協議会）

釧路商工会議所創立100周年記念事業として、経済界が主導して創設されたプラットフォーム。行政、金融機関、大学、民間企業が一体となり、地域から新たなビジネスを連続的に生み出すための「司令塔」として機能している。商工会議所という既存の経済団体が100年の節目に「未来への投資」としてスタートアップ支援に舵を切った点は、極めて示唆に富むまいようで、地元事業者を「課題解決の担い手」ととらえ、地元資本との橋渡しを実現することで、事業化による課題解決のエンジンとなっていました。

今後、網走市においても、「スタートアップ人材の育成」に注力し、東京農大生や地元の若者がIT技術を駆使して一次産業の課題を解決し、そのまま網走で「企業を創出」できる仕組みづくりの必要性を感じました。

特に、網走商工会議所や農大等と連携し、釧路の「KCボード」のような、既存の枠組みを超えて挑戦者を支え続ける「網走版スタートアップ推進体制」の確立ができれば、今後の100年を見据えた取り組みが進められると感じたところです。

出張報告書

令和 7年 11月 2日

会派名 民主市民ネット

会長 山田 庫司郎 様

出張者氏名 平賀 貴幸

下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和 7年 11月 1日（土）～ 令和 7年 11月 2日（日）〔2日間〕						
出張概要	①	月日	11/1	市町村名	札幌市	会場	
		目的	民主議員ネット北海道秋季政策研修会出席				
		テーマ	ヒグマ問題とハンターの状況について3名の講師の講演及びパネルディスカッションを通じて研鑽を深める。				
	②	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	③	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	④	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙（任意様式）で作成して下さい。

政務活動報告書：民主市民ネット・北海道秋季政策研修会「ヒグマ問題の根本的解決に向けた体制整備と法的課題に関する調査」

実施日：2025年11月1日

会場：ホテルポールスター札幌

演題：「ヒグマ問題を考える」

講師は以下の通り

1. 間野 勉 氏（道立総合研究機構フェロー・ヒグマの会副会長）
2. 中村 憲昭 氏（弁護士）
3. 堀江 篤 氏（北海道猟友会会長）
4. 司会＋上記の3名によるパネルディスカッション

【調査の目的と経緯】

網走市においてもヒグマの目撃情報が増加しており、市民の安全確保は待ったなしの状況です。本研修会は、生態学の権威、法曹界の専門家、そして現場を束ねる猟友会会長の三者が揃い、ヒグマ問題を「本気で解決する」ための具体的な課題を抽出する場として開催されました。

特に、砂川市での猟銃所持許可取り消し訴訟が現場のハンターに与えている深刻な影響や、緊急時の発砲を巡る法的リスク、さらには持続可能な対策体制の構築について、網走市議会としてどのようなバックアップ体制を構築すべきか。現場の生の声と専門的知見を直接確認し、今後の実効性ある政策提言に繋げるため、本調査を実施しています。

【調査内容の詳細】

研修会では、3名の講師による各専門分野からの報告と、その後のパネルディスカッションを通じて、現在の対策体制が抱える構造的な課題が見えてきました。

1. 体制と人材：場当たりの対応からの脱却（間野 勉 氏）

間野氏からは、「本気で解決するには体制と人」が欠かせないという本質的な指摘がありました。出沒した個体をその都度追う「事後対応」には限界があり、専門的な知見を持つ職員の配置と、科学的データに基づいた個体群管理を行うための組織体制の確立が不可欠になります。網走市においても、中長期的な管理計画を支える専門人材の育成・確保必要と感じました。

2. 法的リスクの障壁：砂川訴訟がもたらす委縮効果（中村 憲昭 氏）

中村弁護士からは、砂川市の猟銃所持許可取り消し処分を巡る訴訟が、現場に与えた「悪影響」について厳しい指摘がありました。警察の要請で出動し、周囲の安全を確認した上での発砲であっても、事後判断で許可が取り消されるというリスクは、現場のハンターにとって耐え難い重圧となります。緊急銃猟制度の不備が、結果として地域の防衛力を削いでいる現状を法的な視点から理解できました。

3. 現場の限界：ハンターの現状と重すぎる責任（堀江 篤 氏）

堀江会長からは、ハンターの高齢化と減少に加え、上述の法的リスクによって「誰も引き受け手がなくなる」という危機的な現状が報告されました。ボランティア精神に頼った現在の体制はすでに限界を超えており、公的な立場としての位置付けの明確化や、活動に対する正当な対価と、万が一の事態に対する組織的な補償が不可欠であると強く訴えられました。

4. 網走市への応用と展望

今回の調査を通じて、ヒグマ対策を「猟友会への善意の依頼」として終わらせてはならないと痛感しました。

今後、網走市においても、ハンターが安心して活動できる「公的指示系統の明確化」と「法的・経済的なバックアップ体制」の整備について強力に提言します。具体的には、市独自の補償制度の検討や、警察・行政・猟友会の三者による「現場判断の共有化」を進める訓練の実施、さらには間野氏が提唱する専門的知見を持つ人材の配置による、科学的なゾーニング対策を市政に働きかけてまいります。合わせて緊急銃猟制度が首長の許可による実施となることを見据えて、早期の体制整備を進めるべく、網走市に対して働きかけてまいります。

出張報告書

令和 7年 11月 10日

会派名 民主市民ネット

会長 山田 庫司郎 様

出張者氏名 山田 庫司郎

下記のとおり出張したので報告します。

記

出張期間	令和 7年 11月 10日（月） ～ 令和 7年 11月 10日（月） （1日間）						
出張概要	①	月日	11/10	市町村名	北見市	会場	
		目的	北海道市議会議長会道東支部議員研修会の出席				
		テーマ	「スポーツによるまちづくり」 本橋 麻里 カーリングによる普及活動とスポーツによるまちづくりを講演				
	②	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	③	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
	④	月日		市町村名		会場	
		目的					
		テーマ					
所見	別紙のとおり						
備考							

※所見については、別紙（任意様式）で作成して下さい。

道東市議会議員会議員研修会

令和7年11月10日 15:00～16:30

北見市 ホテル黒部

講演 「スポーツによる地域の活性化」

講師 ロコ・ソラーレ 本橋 麻里 様

概要

ロコ・ソラーレの立ち上げの苦労と地域の多くの方々の支援を頂く中で、地域の活性化につながっていった。

現在は、カーリングはもちろん、バスケットによる地域の取組をしている。

スポーツによって、人とのつながりから地域の活性化につながっている。